



大川興業総裁 大川豊氏が語る福祉とは？

目次

P1…表紙

P2…会長挨拶…会長 永嶋昌樹

P4～P6…総会資料

P7～P8…基調講演「大川総裁の介護福祉論～笑福連携～」を聞いて

P9…シニア部員募集のお知らせ（ポスター）

P10…調査研究委員会よりお知らせ

P11…研修のお知らせ

介護福祉士の未来を拓く －専門職としての新たな使命－

東京都介護福祉士会
会長 永嶋昌樹



介護福祉士は、制度上の役割や法的な根拠から「介護福祉の専門職」として位置づけられています。しかし、その専門性は、これまでどうしても「要介護者への直接的な支援」や「施設・事業所におけるケアの担い手」という範囲にとどまりがちでした。

人口減少や高齢化が急速に進むいま、私たち介護福祉士は、自らの専門性をよりマクロな視点から再構築し、地域社会の中で新たな使命を果たしていかなければなりません。介護保険制度のもとでは、要介護状態となる前の「介護予防」の重要性が繰り返し指摘されています。しかし、現状では制度的な限界もあり、本格的な支援が始まるのは多くの場合、すでに心身の機能が大きく低下し、何らかの支援や介護が必要となってからです。これからの中介護福祉士は、要支援者・要介護者への支援はもちろんですが、それ以前の段階、すなわち「予防給付が必要な状態となる前」に、いかに働きかけるかが重要となってきます。なぜなら、65歳以上人口の増加に伴い要支援・要介護状態となる人の数も増えていくと見込まれ、少子化が進展する現状では、今後いつまでたっても十分な介護人材が確保できないと考えられるからです。要支援・要介護状態になったから支援するのではなく、そのような状態にならないように支援していくことが、生活支援を専門とする介護福祉士に求められるのではないでしょうか。健康状態の維持や生活習慣の改善、地域の中でのつながりづくりなど、生活の質を高め、病気や要介護状態となることを防ぐための支援に、私たちは積極的に関わっていく必要があります。



そのためには、介護技術だけでなく、栄養や運動、心理社会的な支援、さらには「食」についての幅広い知識も不可欠です。たとえば、日々口にする食物がどのような原材料から作られているかを知ることは、支援する人の健康を考える上で大変重要です。さらに、どのような過程を経て食卓に届いているのかを理解することは、単なる栄養知識にとどまらず、地域の農業や生産者、食の安全や文化への理解にもつながります。人は地域の中でさまざまな他者や制度の恩恵を受けて生活しています。「食」を通じて地域を知り、その地域に積極的に働きかけることで、そこで暮らしている人の生活をより総合的に支援できる可能性が拡がります。

また、私たち介護福祉士が、職場を離れた「自分の暮らしている地域」においても専門職としての知識や技術を活かし、活動することも求められています。地域のサロンや居場所づくり、ボランティア活動、地元の自治会やNPOとの連携など、職場内の支援に留まらない地域貢献の姿が必要です。そのことが、地域包括ケアシステムの深化につながり、結果として介護福祉士自身の専門性の幅や深さを広げる機会となります。

職能団体は、こうした介護福祉士の新たな可能性を切り拓くための支援を使命としています。人材育成のあり方も、資格取得後の研鑽にとどまらず、よりマクロな視点を持ち、生活支援・地域支援の両輪で活躍できる介護福祉士を育むことが求められています。専門職としての誇りと責任を胸に、制度の枠を超えて、地域社会に新たな価値をもたらす介護福祉士像を、ともに築いてまいりましょう。



正味財産増減計算書

公益社団法人 東京都介護福祉士会

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

(単位 : 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	433	300	133
基本財産受取利息	133	0	133
基本財産受取配当金	300	300	(
受取会費	5,188,000	5,309,000	△ 121,000
正会員受取会費	5,075,000	5,155,000	△ 80,000
学卒特別会員受取会費	68,000	84,000	△ 16,000
賛助会員受取会費	45,000	70,000	△ 25,000
事業収益	14,522,380	9,671,540	4,850,840
研修会費収益	6,538,760	3,244,390	3,294,370
研修手数料収益	1,500	0	1,500
委託料収益	5,418,820	4,733,150	685,670
第三者評価事業収益	2,527,000	1,622,000	905,000
協賛金収益	36,300	72,000	△ 35,700
受取寄付金	5,666,140	630,140	5,036,000
受取寄付金	434,000	398,000	36,000
受取寄付金振替額	5,232,140	232,140	5,000,000
雑収益	15,877	41	15,836
受取利息	3,038	41	2,997
雑収益	12,839	0	12,839
経常収益計	25,392,830	15,611,021	9,781,809
(2) 経常費用			
事業費	21,169,413	18,793,128	2,376,285
給料手当	4,435,267	4,321,438	113,829
法定福利費	674,801	517,713	157,088
旅費交通費	315,311	311,603	3,708
消耗品費事	244,457	55,995	188,462
務用品費団	138,340	180,140	△ 41,800
書教育費リ	165,660	67,386	98,274
一ス料会議	1,123,513	1,035,114	88,396
費	20,455	12,934	7,521
印刷製本費	705,587	825,040	△ 119,453
光熱水料費	206,331	205,521	810
諸謝金	7,185,139	5,623,476	1,561,663
支払手数料	601,157	194,025	407,132
管理費	333,480	333,480	(
会場利用料	212,310	144,040	68,270
雑費	0	6,339	△ 6,339
通信運搬費	1,161,644	1,002,802	158,842
委託費	3,161,525	3,612,546	△ 451,021
租税公課	263,900	123,000	140,900
減価償却費	220,536	220,536	(
管理費	1,530,192	1,481,119	49,073
給料手当	233,439	227,448	5,991
法定福利費	35,512	27,244	8,268
旅費交通費	38,175	29,708	8,467
消耗品費事	12,683	618	12,065
務用品費会	7,282	9,482	△ 2,200
議費	934	0	934
印刷製本費	139,170	157,212	△ 18,042
光熱水料費	10,860	10,817	43
保険料	41,200	0	41,200
諸謝金	43,500	63,000	△ 19,500
支払手数料	5,923	3,835	2,088
会場利用料	32,620	0	32,620

正味財産増減計算書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

(単位 : 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
雑費	14,070	13,520	550
通信運搬費	18,632	20,368	△ 1,736
涉外費	5,000	5,000	0
顧問料	585,960	572,000	13,960
委託費租	189,058	228,993	△ 39,935
税公課	104,570	100,270	4,300
減価償却費	11,604	11,604	0
経常費用計	22,699,605	20,274,247	2,425,358
評価損益等調整前当期経常増減額	2,693,225	△ 4,663,226	7,356,451
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,693,225	△ 4,663,226	7,356,451
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,693,225	△ 4,663,226	7,356,451
一般正味財産期首残高	490,721	5,153,947	△ 4,663,226
一般正味財産期末残高	3,183,946	490,721	2,693,225
III 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額一	△ 5,232,140	△ 232,140	△ 5,000,000
一般正味財産への振替額当	△ 5,232,140	△ 232,140	△ 5,000,000
期指定正味財産増減額指	△ 5,232,140	△ 232,140	△ 5,000,000
定正味財産期首残高 指	29,973,599	30,205,739	△ 232,140
定正味財産期末残高	24,741,459	29,973,599	△ 5,232,140
III 正味財産期末残高	27,925,405	30,464,320	△ 2,538,915

総会資料 2

予算対比正味財産増減

計算書

(単位 : 円)

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 差
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5,300	433	4,867
基本財産受取利息	5,000	133	4,867
基本財産受取配当金	300	300	0
受取会費	4,465,000	5,188,000	△ 723,000
正会員受取会費	4,340,000	5,075,000	△ 735,000
学卒特別会員受取会費	60,000	68,000	△ 8,000
賛助会員受取会費	65,000	45,000	20,000
事業収益	18,897,000	14,522,380	4,374,620
研修会費収益	12,382,000	6,538,760	5,843,240
研修手数料収益	100,000	1,500	98,500
委託料収益	4,950,000	5,418,820	△ 468,820
第三者評価事業収益	1,300,000	2,527,000	△ 1,227,000
協賛金収益	165,000	36,300	128,700
受取寄付金	632,140	5,666,140	△ 5,034,000
受取寄付金	400,000	434,000	△ 34,000
受取寄付金振替額	232,140	5,232,140	△ 5,000,000
雑収益	100	15,877	△ 15,777
受取利息	100	3,038	△ 2,938
雑収益	0	12,839	△ 12,839
経常収益計	23,999,540	25,392,830	△ 1,393,290
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	20,575,333	21,169,413	△ 594,080
臨時雇賃金	4,360,880	4,435,267	△ 74,387
法定福利費	12,000	0	12,000
	456,000	674,801	△ 218,801

旅費交通費	450,000	674,801	△ 218,801
消耗品費事務用品費國	352,000	315,311	36,689
書教育費り	38,000	244,457	△ 206,457
一ス料会議費	28,500	138,340	△ 109,840
印刷製本費	390,000	165,660	224,340
光熱水料費	1,111,440	1,123,513	△ 12,073
諸謝金	50,000	20,455	29,545
支払手数料	0	705,587	△ 705,587
管理費	218,500	206,331	12,169
会場利用料	7,180,000	7,185,139	△ 5,139
通信運搬費	564,000	601,157	△ 37,157
委託費	333,480	333,480	0
租税公課	522,000	212,310	309,690
減価償却費	819,000	1,161,644	△ 342,644
管理費	3,919,000	3,161,525	757,475
給料手当	0	263,900	△ 263,900
法定福利費	220,533	220,536	△ 3
旅費交通費	1,728,127	1,530,192	197,935
消耗品費事務用品費会	229,520	233,439	△ 3,919
議費	24,000	35,512	△ 11,512
印刷製本費	8,000	38,175	△ 30,175
光熱水料費	2,000	12,683	△ 10,683
保険料	1,500	7,282	△ 5,782
諸謝金	0	934	△ 934
支払手数料	200,000	139,170	60,830
会場利用料	11,500	10,860	640
	0	41,200	△ 41,200
	0	43,500	△ 43,500
	6,000	5,923	77
	0	32,620	△ 32,620

科 目	予算額	決算額	差 差
雑費	0	14,070	△ 14,070
通信運搬費	181,000	18,632	162,368
涉外費	5,000	5,000	0
顧問料	583,000	585,960	△ 2,960
委託費租	365,000	189,058	175,942
税公課	100,000	104,570	△ 4,570
減価償却費	11,607	11,604	3
経常費用計	22,303,460	22,699,605	△ 396,145
評価損益等調整前当期経常増減額	1,696,080	2,693,225	△ 997,145
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,696,080	2,693,225	△ 997,145
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,696,080	2,693,225	△ 997,145
一般正味財産期首残高	490,721	490,721	0
一般正味財産期末残高	2,186,801	3,183,946	△ 997,145
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額一	△ 232,140	△ 5,232,140	5,000,000
一般正味財産への振替額当	△ 232,140	△ 5,232,140	5,000,000
期指定正味財産増減額指	△ 232,140	△ 5,232,140	5,000,000
定正味財産期首残高 指	29,973,599	29,973,599	0
定正味財産期末残高	29,741,459	24,741,459	5,000,000
III 正味財産期末残高	31,928,260	27,925,405	4,002,855

総会開催のご報告

writer / 小幡真也

令和7年6月7日(土15時30分から、道灌山学園保育福祉専門学校において「第11回定時社員総会」を対面参加型の総会として開催致しました。永嶋会長より開催にあたっての挨拶後、議長団の選出がありました。

・第1号議案:令和6年度決算報告並びに監査報告に関する件

浦尾常務理事より、決算報告書の原案を説明後、池田監事から監査報告がありました。賛成多数で承認可決されました

・報告事項1:令和6年度事業報告に関する件

小幡副会長から、令和6年度事業報告について報告がありました。

・報告事項2:令和7年度事業計画に関する件

望月副会長から、令和7年度事業計画について報告がありました。

基調講演 大川総裁の介護福祉論 ～笑福連携～を聞いて



今回の基調講演に大川総裁をお呼びしたきっかけは、私が勤めている施設に出入りしている業者の方からの紹介でした。「大川興業の大川総裁は福祉の現場にインタビューしに行っているし、国会の記者として議員さんにも福祉のことを確認しに行っているんだよ。」という話に対し、私はどちらかというと半信半疑な気持ちで聞いていました。しかし、総裁の著書「大川総裁の福祉論！」を読ませていただき、本気で福祉を考えている人であると自分の考えが180度変わりました。自分の先入観の浅はかさに対し、まだまだ修練が必要であると感じたところです。



さて、そのようなきっかけで総裁とつながり、今回の基調講演につながったわけですが、私は大川総裁の様々なエピソードの中でも、「大学時代に150社以上面接を受けてすべて不採用だった。だから自分で会社を立ち上げた」という件が印象的でした。私も実は就職活動で何度も不採用通知を頂戴していた身です。今の法人には通算4回目の面接を受けて採用通知を頂戴いたしました。3階連続不採用通知をいただいたときは「俺...この業界に向いていないんじゃないじゃあないかなあ...。」と弱気になりました。総裁は私と比べて単純に50倍以上の不採用通知をいただいているにもかかわらず、受け続けられるメンタルと、そこから自分で会社を設立するという行動力の源について、大川総裁に伺ったところ（次ページへ）

基調講演

大川総裁の介護福祉論～笑福連携～を聞いて

「仕方がないじゃん！自分のやりたいことを理解してくれるところがなかっただけなんだから。じゃあ自分で作るしかないかと思っただけですよ。」とお話しくださいました。言うのは簡単なことですが、取り組み方がわからないことや目に見えない不安が私たち人間の歩みを止めてしまうことはあると思います。総裁の話を聞いていると、「わからないこと」＝「わかるまで調べること」が総裁の根底にあるのではないかと感じました。今の仕事や業務においてなぜ？どうして？と感じる業務があるとして、行う理由がわからないと、できない理由が前面に出てしまい、「やれない」という判断に至るのではないかと感じました。

私は今は事務方として老健で働いておりますが、現場員時代を振り返るいつの間にか施設でできることにその方を当てはめて支援をしていたのではないか？本当にその人のやりたい事だったのかと考えてしまいます。その人の能力を発揮する支援を提供することを念頭に置いて現場での仕事をしていたつもりでしたが、もしかしたら私自身が枠組みとなってしまっていたのではないかと思うところです。総裁のバイタリティ溢れる行動力は底知れぬ知りたい欲求があるんだなあと思うと同時に、目の前のご利用者のやりたいことを本当に聞くことができていたのであろうか？またやりたいという事に対し、できないであろう理由を並べていたのではないかと思いました。まだまだ学べることがたくさんあると思う反面、今までの自分の対応に反省をしながら総裁の話術に飲み込まれた貴重な体験でした。文章：小幡真也

【大川豊氏 プロフィール】

大川興業総裁。1962年東京都まれ。明治大学在学中にお笑い集団「大川興業」を結成。就職試験で153社不合格となり、1985年大川興業株式会社を設立。芸人と同時にプロデューサーとして1990年から若手芸人育成のためのライゴ「すっとこどっこい」を毎月開催し、多くの芸人を輩出。政治経済のネタを得意とし、国内外で取材を行う。近年は福祉、医療の現場にも赴き、その活動は多岐にわたる。総理記者会見にも参加している。幅広い人脈を活かし、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などの復興支援活動も行う。著作に『大川総裁の福祉論！』（旬報社）『金なら返せん！』『日本インディーズ候補列伝』（扶桑社）他。

東京都介護福祉士会 シニア部会 (壮年部会)

第1回を開催しました。
次回、9月末～10月初旬(平日夜)
オンラインで開催予定！

介護福祉士として長く勤めて定年を迎えた方、
まもなく定年を迎える方、50歳代以上の方が集まり、
これまでの経験や現在取り組んでいること、
新たにチャレンジしたいことなどを自由に語り合い、
職業人生の「仕上げ」を一緒に考え、作ってみませんか？



1987年（昭和62年）に介護福祉士資格が誕生してから38年もの月日が流れました。当時「若手」だった職員も50代、60代以上になっています。2000年（平成12年）の介護保険制度施行以降は、多様な経験をもつさまざまな世代の介護職員、介護福祉士が入り、すでに四半世紀がたちます。豊富な経験を持ちながら、定年や高齢のために現場を離れる会員も増えています。

「シニア部会（壮年部会）」は、定年を迎えた人や間近に控えた人が自分たちの経験を振り返りながらセカンドライフを思い描いて共有しようという思いからスタートしました。また日本介護福祉士会倫理綱領「後継者の育成」の観点から、若い世代に伝え残すべきメッセージなども語り合いたいと思っています。

広報期間が短かったにもかかわらず、第1回（7月29日）には50～60歳代9名の方が参加してくださいました。他業種を経て介護福祉士に入った方は、介護業界ならでは考え方に戸惑いつつも、外部からは見えにくい介護の場や介護という仕事の価値や意義を、若い世代の介護福祉士や社会に伝えていきたいと話されていました。いくつかの職場を転々しながら、同じような介護でも組織風土や個人によって意味づけや考え方方が微妙に異なっていてモヤモヤしてきたという経験を語った方もいました。長年働いてきたけれど、介護職の権利が十分に守られない現状では自分の子どもに勧められないと語ってくれた方もいます。その方は「介護福祉士を国家資格化した際にどのような議論が行われたのか。先人たちの思いや願いにもう一度立ち戻ってみるべきだ」と話されました。

初回は自己紹介を兼ねて各自の思いを語っていただくだけで、1時間半という時間があつという間に過ぎてしまいました。皆さんの思いに触れられ、共有できたとても貴重な時間でした。次回以降は、2か月に1回程度、簡単なテーマを設定して開催する予定です。50歳以上の方（関心のある方は若い世代の方でもOK）、ぜひお気軽にお集まりください。

調査研究委員会よりお知らせ

○会員アンケートを行います

【担当理事：企画部 調査研究委員会 佐々木】

今年度より、会員の皆さまの声を会員間で共有したり、会の運営に役立てる目的として、オンラインでアンケートを行うことになりました。

集計結果は次号の東京都介護福祉士会ニュースやSNS等で公開します。ご自分以外に同じ思いを持つ人、ご自分と違う意見をもつ人などさまざまな思いや意見を共有することで、ほんの少しでも今後のお仕事に役立てるきっかけにしていただきたいと思います。

○今回のテーマは「会の活動に参加した経験や感想、会に対して思うこと」です。

○アンケートの集計結果は、ニュース等を通じて会員にフィードバックするほか、日本介護福祉学会の全国大会等で公表することがあります。公表に際して、個人が特定される可能性のある情報は一切公開しませんので、ご安心ください。

○以下にアクセスして、お気軽にご回答ください。

回答期限は2025年9月30日（火）23:59です。

<https://forms.gle/mHL5rKpKWJQPb1kN8>



○今後予定しているテーマ

- ・会の活動に参加した経験や感想、会に対して思うこと（今回）
- ・介護ロボットやICTの導入・活用に関すること
- ・介護福祉士の専門性に関すること
- ・外国人職員との協働に関すること
- ・人材不足のなかで介護の質の維持・向上に心がけていること
- ・介護福祉士の社会的評価や待遇に関することなど

令和7年度 研修のお知らせ

公益社団法人 東京都介護福祉士会 研修委員会

第1回 実習指導者講習会（対面・全4日間）

1日目 8/20 (水)
2日目 9/7 (日)
3日目 9/20 (土)
4日目 9/28 (日)

会場：北千住
定員：30名

申込受付中！！

技能実習指導者講習会（対面・全1日間）

11/2 (日)

会場：道灌山学園保育福祉専門学校
定員：40名

実務者研修教員養成講習会（対面）

10月～11月頃 開催予定 会場未定・定員15名程度

サービス提供責任者研修（対面）

冬頃 開催予定

会場未定・定員20名程度

認定介護福祉士養成研修（1類・対面）

昨年度に引き続き、1類の残り6科目を10月から開講します。
①福祉用具と住環境に関する領域・10/30（木）・10/31（金）（住環境）
会場：道灌山学園保育福祉専門学校・11/29（土）・11/30（日）（福祉用具）
②心理・社会的支援の領域 日程調整中

- ・心理的支援の知識・技術（2日間）
- ・地域生活の継続と家族支援（2日間）
- ③生活支援・介護過程に関する領域日程調整中
- ・認定介護福祉士としての介護実践の視点（3日間）
- ・個別介護計画書作成と記録の演習（3日間）
- ・自職場事例を用いた演習（1日）

定員：科目ごとに30名

※補講の方、他県からの受講も可能です！

外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座

1回目9/27（土）

2回目 10/11（土） 会場：特別養護老人ホーム 杜の風・上原 7階 研修室

3回目11/8（土） 定員：15名

4回目 11/29（土）

5回目12/6（土）

介護福祉士国家試験対策講座、 令和7年度全国一齊模擬試験

11月開催予定

一般研修（対面）

- 移動・移乗技術研修（9月頃開催予定 定員20名）
- ICT研修（11月頃開催予定 定員50名）
- 認知症ケア研修（10月頃開催予定 定員15名）
- レクリエーション研修（10月頃開催予定 定員15名）
- 介護職員のための医療知識研修（10月頃開催予定 定員15名）

